

第2回「徳島市子どもの学び推進プロジェクトチーム会議」議事録【抜粋】

会議の名称

第2回「徳島市子どもの学び推進プロジェクトチーム会議」議事録

会議の目的

オンライン授業や一人一台タブレット端末の活用推進を行い、誰一人取り残すことのない、個別最適化された学びを実現し、未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指している。なお、家庭教育の充実・学校教育の充実・遠隔教育の充実を育成の柱と掲げている。

とき・ところ

令和5年2月16日(木) 15:00～ 徳島市役所11階 1101会議室

出席者

委員4名(大学関係者・保護者代表・小中学校長含む)、事務局4名(徳島市教育委員会)

議題

- (1) タブレット端末の活用状況及びEdtech活用推進校の取組報告について
- (2) 今後の方向性について

議事内容(主な意見等)

(1) タブレット端末の活用状況及び取組報告について(事務局・活用推進校からの報告)

○実践事例の紹介や教職員研修の充実により、①タブレット端末やデジタル教科書の使用時間が増加、②ICTを活用した授業改善の実践事例の増加等、第1回状況調査から一定の成果が見られた。

【Edtech活用推進校取組の一例】

- ・オンライン配信による学びを止めない取組・親子タブレット教室・登校時の健康観察等での活用・タブレット端末を使用した授業、行事、家庭学習の取組・小中の接続を意識した取組・SNS等の情報モラル教育
 - 接続環境や本体などのハード面での課題やICT支援員等の人的支援、研修の充実についていただいた意見や要望について、今後も学校をサポートしていける環境整備を行っていく。
 - 今後は、①ネット環境や人的整備のサポート、②研修の充実、③効果的な活用や指導法の周知、④ICT利活用に関する具体的な目標設定を行い、委員・事務局・各校と共通理解しながら取組を進めていく。
- (2) 今後の方向性について(大学関係者・保護者・小中学校長からの様々な意見)
- 「何のためのGIGAか」という理念と理論が大切。これからの時代(【VUCA】world)を生きる資質・能力を身に付ける。(【VUCA】=Volatility(変動性)・Uncertainty(不確実性)・Complexity(複雑性)・Ambiguity(曖昧性)の頭文字)自ら問題を発見し、あらゆる他者と協力して解決していける力が必要という認識をもつ。
 - タブレット端末の使用自体を目的としない。GIGAの目的は、次のような授業をめざすためである。
 - ・教科書を開くだけになったり、用意した紙をベタベタはるだけの板書になったりしない子ども主体の学習
 - ・全員前を向いた机の配置で教師を向いて発言するのではなく、フロア全体で考えていける学習
 - ・学習課題は「めあて」「～しよう」と表現するよりも、「なぜ～だろうか」「どうすれば～できるだろう」など、子ども自身の問題(教師が与えるというより、子どもが見つかるもの)としてとらえられるようにする。
 - ・学習問題とそれに対応した解決がある、子どもの思考の流れがわかる指導案
 - ・教師の作成したワークシートや指導案を乗り越えるぐらい、子どもの学びが主体的に成立するような授業
 - ・ICTを使いこなせる教師と子ども(教師も子どもとともに使っていけばよい)
 - 具体的な実践イメージが共有できるとよい。(写真・動画等)「それ、いいね。」「それだったらできそう」「やってみよう」と思えば、さらに活用が進む。
 - タブレットを何に使ったか。どう使ったか。宿題として使うことも大事だが、余暇として使うことも先進国では大切にしている。言語・数量スキルと同じように情報スキルを基礎と捉える学力観をもち、問題発見・解決能力、批判的思考力等を育て、自律的活動力を身に付けていく。「自律」とは、子ども自身が考えるということ。それがGIGAの目的であり、そうなるような授業の導入を、緻密に考えておく必要がある。
 - 授業改善は楽しい。本日の2校の実践や様々な取組・情報についてシェアして、取組を継続していく。